

SY3-2

成育基本法の推進ツールとしてのロジックモデル

後藤 あや

福島県立医科大学 総合科学教育研究センター

成育医療等基本方針に基づく施策の実施状況に関する評価の指標として、「PDCA (plan - do - check - act) サイクルを実施している自治体の数」が含まれている。ロジックモデルは主に国際協力の分野で使われてきた、PDCAサイクルのツールである。1970年代に米国でlogical frameworkが使われはじめ、1990年代に国際開発機構(FASID)が日本版のProject Cycle Management (PCM)を開発し、国際協力機構(JICA)で採用されている。PCM手法は、問題の原因を分析し、解決策を探り、対策を実行するための事業計画書(Project design matrix, PDM)を作成して、実施状況をモニタリング、そして最終評価とその後の事業継続につなげる一連の過程を系統的に示した手法である。本発表では、PCM手法の流れとPDMの構造について概説した上で、「成育医療等基本方針に基づく施策の実施状況に関する評価指標」に関連した自治体のデータに基づいて作成したPDMの例を提示する。